仙台市水道局キャラクター
ウォッターくん

平成28年度事業計画

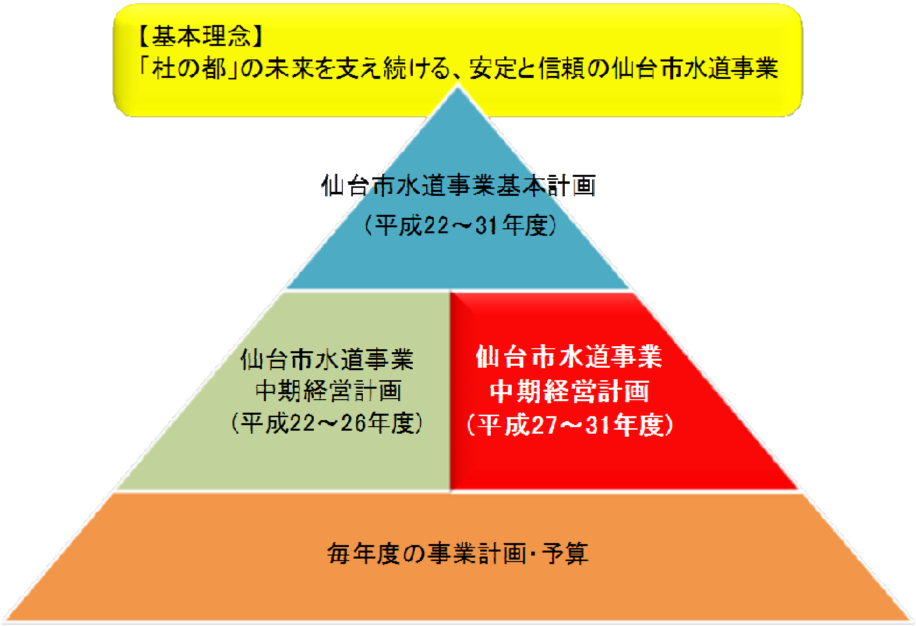
仙台市水道局

１．　はじめに

■　仙台市水道局では、平成 22 年 3 月に策定した「仙台市水道事業基本計画（平成 22 年度～平成 31 年度）」（以下「基本計画」という。）及びその実施計画である「仙台市水道事業中期経営計画（平成 22 年度～平成 26 年度）」（以下「中期経営計画」という。）に基づき、各年度の事業に取り組んできました。この度、前期計画期間の満了に当たり、平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災という未曾有の災害に直面した経験と教訓、そして現状と新たな課題を踏まえつつ、基本理念の実現に向けた施策や事業を推進していくため、新たに後半 5 年間の「仙台市水道事業中期経営計画（平成 27～31 年度）」を策定し、事業に取り組んでいます。

このたび，平成 28 年度における事業計画がまとまりましたので，お知らせいたします。

図１　仙台市水道事業の計画体系



２． 予算の概況

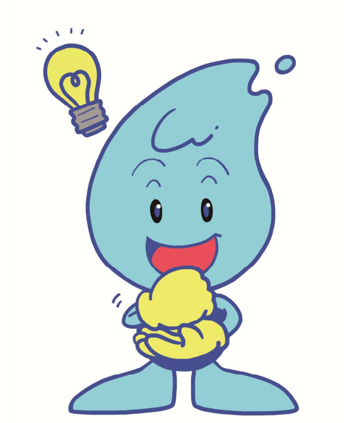
■ 本市水道事業においては，これまでの経営の効率化に向けた取り組みにより，健全な財政状況を維持しておりますが，将来の人口減少や節水意識の浸透等による有収水量の減少に加え，水道施設の老朽化対策，耐震化等に要する費用が増加していく見通しであることから，経営環境は一段と厳しさを増す見込みであり，引き続き事業運営の効率化やコスト縮減に努めながら，計画的な事業の推進を図っていく必要があります。

■ 本年度においては，仙台市水道事業中期経営計画（平成 27～31 年度）に基づき，より一層の経営の効率化に努めるとともに，施設・管路の耐震化，水運用機能の強化，災害時給水機能の拡充，長期停電対策等の災害対策や，太陽光発電の導入拡大，省エネルギー型機器への切替推進等の環境施策などを推進してまいります。

■ 今後も計画的かつ効率的な事業運営による経営基盤の強化やサービスの向上に努め，安全で良質な水道水を安定的に供給していくことを通じて，お客さまと地域社会に一層信頼される水道事業を目指してまいります。

３．事業計画

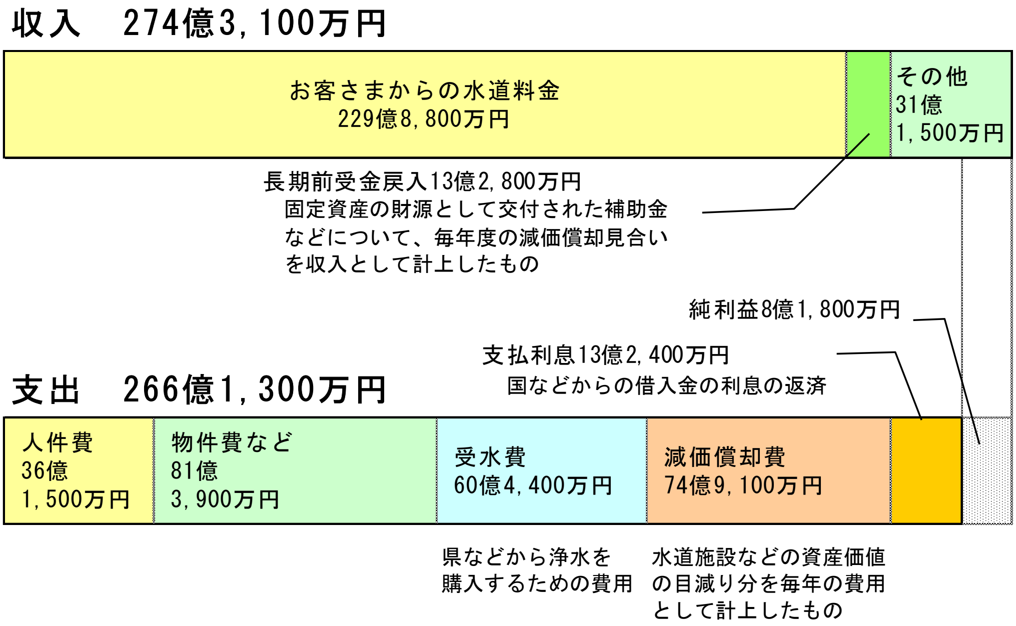
区　　分	単位	平成 28 年度 当初予算 (C)	平成 27 年度 補正後予算 (D)	増減（△減） (C)－(D)	比率(%) (C)/(D)
年間総配水量　(A)	m³	119,139,650	119,949,180	△ 809,530	99.3
（仙台市配水量）	m³	(114,938,500)	(115,915,860)	(△ 977,360)	(99.2)
（他市町分水量）	m³	(4,201,150)	(4,033,320)	(167,830)	(104.2)
一日最大配水量	m³	363,100	365,543	△ 2,443	99.3
一日平均配水量	m³	326,410	327,730	△ 1,320	99.6
年間有収水量　(B)	m³	112,467,450	112,991,520	△ 524,070	99.5
有収率 (B)/(A)	%	94.4	94.2	0.2	100.2
使用給水栓数	栓	447,000	441,000	6,000	101.4
職員数（管理者除く）	人	407	407	0	100.0



4．財政状況

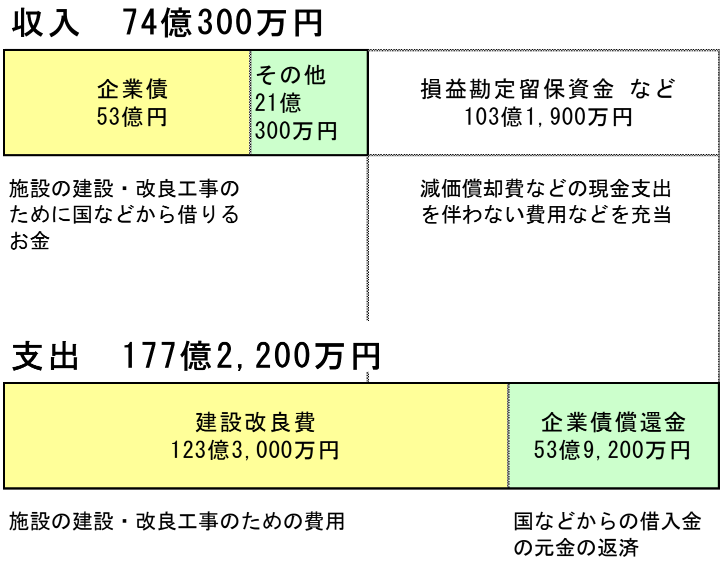
（1）収益的収支

■ 水道水をつくり，ご家庭にお届けするための財源と経費です。



（2）資本的収支

■ 水道施設を建設・改良するために必要な財源と経費です。



（3）前年度との比較（収益的収支）

（単位　千円）

区分 / 科目	平成28年度当初予算	平成27年度補正後予算	増減（△減）	比率（%）
水道事業収益	27,431,331	27,659,601	△ 228,270	99.2
営業収益	24,591,855	24,669,898	△ 78,043	99.7
給水収益	23,562,031	23,607,139	△ 45,108	99.8
受託工事収益ほか	1,029,824	1,062,759	△ 32,935	96.9
営業外収益	2,836,353	2,986,874	△ 150,521	95.0
水道加入金	1,012,504	1,097,542	△ 85,038	92.3
他会計補助金	346,323	341,067	5,256	101.5
長期前受金戻入	1,328,430	1,351,231	△ 22,801	98.3
不動産賃貸料ほか	149,096	197,034	△ 47,938	75.7
特別利益	3,123	2,829	294	110.4
水道事業費用	26,613,059	25,998,441	614,618	102.4
営業費用	25,165,660	24,482,324	683,336	102.8
人件費	3,615,301	3,193,340	421,961	113.2
物件費	7,354,837	7,290,725	64,112	100.9
受水費	6,044,204	6,094,679	△ 50,475	99.2
減価償却費ほか	8,151,318	7,903,580	247,738	103.1
営業外費用	1,371,755	1,440,799	△ 69,044	95.2
支払利息	1,324,413	1,369,055	△ 44,642	96.7
繰延資産償却ほか	47,342	71,744	△ 24,402	66.0
特別損失	45,644	45,318	326	100.7
予備費	30,000	30,000	0	100.0
当年度純損益（税抜き）	818,272	1,661,160	△ 842,888	49.3

（注）　消費税及び地方消費税抜きの額である。

（4）前年度との比較（資本的収支）

（単位　千円）

区分 科目	平成28年度当初予算額	平成27年度補正後予算額	増減額（△減）	比率（％）
水道事業資本的収入	7,402,838	6,467,812	935,026	114.5
企業債	5,300,000	5,000,000	300,000	106.0
固定資産売却代金	1	16,221	△ 16,220	0.0
出資金	889,998	711,760	178,238	125.0
国庫補助金	848,423	294,975	553,448	287.6
開発負担金	225,136	324,341	△ 99,205	69.4
負担金	127,597	104,862	22,735	121.7
その他資本的収入	11,683	15,653	△ 3,970	74.6
水道事業資本的支出	17,721,784	15,741,562	1,980,222	112.6
建設改良費	12,330,185	10,904,602	1,425,583	113.1
配水管整備事業費	5,862,165	5,520,774	341,391	106.2
施設整備事業費	6,173,269	5,122,893	1,050,376	120.5
受託等工事費	294,751	260,935	33,816	113.0
企業債償還金	5,391,599	4,836,960	554,639	111.5
差引	△10,318,946	△ 9,273,750	△ 1,045,196	111.3

（注）消費税及び地方消費税込みの額である。

５．主な実施事業

■　平成 28 年度の主な事業を「水道事業中期経営計画」における２つの『目指すべき将来像』に沿ってご紹介します。※【　】内の金額は平成 28 年度の当初予算額です。

１　強くて安心な水道

（1）災害に強い施設・システムの整備

■　管路の耐震化【約 52 億 8, 900 万円】

配水幹線や老朽管、災害医療の拠点となる病院への管路を、耐震性に優れた水道管に更新します。

管路の更新工事

■　浄・配水施設の耐震化【約 30 億 4, 700 万円】

茂庭浄水場をはじめとする施設の耐震補強工事などを行います。

■　配水ブロックの再編【約 1 億 1, 600 万円】

適正な水量と水圧の管理、災害時の影響区域の縮小化などを図るため、現在 128 ある配水ブロックの細分化に係る施設整備を行います。

（2）災害対応力の強化

■　災害時給水施設の設置【約 4, 300 万円】

大規模災害時などに効果的な応急給水ができるよう、市立小学校 26 校に災害時給水栓を設置します。

災害時給水栓

■　非常用自家発電設備の更新等【約 7, 400 万円】

災害時の長期停電に備え、主要な浄水場や配水所の非常用自家発電設備の更新などを行います。

■　給水車用注水補給設備の整備【約 400 万円】

大規模災害時などに効率的な応急給水活動ができるよう、水道局本庁舎に給水車への注水補給設備を整備します。

給水車用注水補給設備

（3）水質管理の徹底

■　高度浄水処理施設の導入【約 2 億 8,400 万円】

水源のダム湖で発生した臭いなどを除去し良質な水を供給するため、福岡浄水場へ粉末活性炭注入設備を新設します。

2　エコで持続可能な水道

太陽光発電設備

（1）環境に配慮した事業の推進

■　太陽光発電設備等の設置【約 2,700 万円】

水道局本庁舎付属棟（15kW）へ太陽光発電設備等を設置し、環境負荷の更なる低減を図ります。

■　省エネルギー型機器への切り替え【約 3 億 2,300 万円】※老朽更新費用を含む

福岡浄水場受変電設備の更新や、水道局本庁舎のエレベーター改修などにより、省エネルギー型機器への切り替えを推進します。

■　次世代自動車等への切り替え【約 1,900 万円】

公用車の更新に合わせ、低公害車への切り替えを推進します。

（2）お客さま本位の事業の推進

■　窓口・電話対応に関するサービスの充実

水道修繕受付センターの運営や、地元密着型水道修繕登録店制度の運用により、更なるサービスの充実を目指すとともに、コールセンターシステムの改修を行い、お客さま対応の迅速化を図ります。

（3）経営マネジメントの推進

■　アセットマネジメントの推進

水道施設の適切な維持管理や計画的な更新など、アセットマネジメント（資産管理）の取り組みを更に推進するため、水道施設の情報を管理するシステムの構築に着手します。